

◎てんたかくの穂肥は、幼穂長1mmの時期に遅れずに施用しましょう。  
◎越冬したカメムシの頭数が多い状況です。一斉草刈りでカメムシのえさ場をなくしましょう。

## 1 てんたかくの生育状況（6月11日現在）

- ・生育（葉令）は、近年より早く進んでいます。このまま近年並みの気温で推移すると、5月5日植えのほ場では幼穂形成期が6月22日頃になると見込まれます。

〈展示ほ調査結果と生育時期予測〉

	田植日 (月/日)	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉令 (L)	葉色	幼穂形成期 (月/日)	出穂期 (月/日)
今年	5/5	30.9	412	9.9	4.3	(6/22)	(7/13)
近年	5/3	34.7	461	9.3	4.6	6/24	7/16

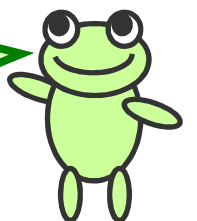
※近年（H24～30年は「てんたかく」、R元～5は「てんたかく81」の値を用いた平均）

## 2 穂肥の施用

### (1) 分施の場合

- ・下表を参考に、適期に2回の穂肥を確実に施用しましょう。
- ・田植時期や地域により、幼穂長1.0mmになる時期は異なりますので、必ず幼穂長を確認しましょう。

収量向上のため、幼穂形成期頃に葉色「4.3」を確保する！



田植日	肥料	1回目(幼穂長1mm)		2回目(1回目から10日後)	
		時期	10a施用量	時期	10a施用量
5/5頃	追肥3号	6/22頃	10kg	7/2頃	10～13kg

### (2) 肥効調節型肥料の場合

- ・安易な追肥は過剰籾数や割籾、倒伏を招くので原則、施用しません。ただし、6月下旬の葉色が4.0以下の圃場は、すみやかに「追肥3号で7kg/10a程度」の追肥を行きましょう。

## 3 紋枯病防除の実施

- ・紋枯病の多発ほ場では、幼穂形成期10日後（7月2日頃）に、「モンセレン粉剤DL」を4kg/10a散布しましょう。

## 4 中干し後は飽水管理

- ・足跡に水が残る程度の「飽水管理」を出穂期まで行い、稲の活力を維持しましょう。
- ・出穂後は、20日間の湛水管理を行きましょう。

## 5 一斉草刈りでカメムシの密度低下

- ・6月28日(金)～7日(月)は県下一斉草刈り運動期間です。集落ぐるみで草刈りを実施し、カメムシの発生密度を下げましょう。



アカスジカメムシ



クモヘリカメムシ

### 農作業安全のポイント

- ◇草刈り機での事故が多発しています。防護具を着用し、安全な操作方法で作業しましょう。
- ◇農作業中の熱中症に気を付けましょう。暑さに慣れてない初夏や梅雨明け時期も熱中症に注意してください。



農業のために 地域のために 明日のために  
**JA共済の**  
**地域貢献活動**